

くらしのすまいりんぐ

地球と人に優しい家づくり・くらしづくりの情報広場

2022年3月吉日発行
NO.0093
発行責任者：(有)文化舎東毛
〒376-0101
みどり市大間々町大間々1190-4
☎0277-73-4850



<今月の話>

1. 今月の話題 ～価値が減る通貨～
2. 暮らしを快適にするには…窓断熱から
3. 旬の食材 ～『蛤』はまぐり～
4. 建築知識 ～家の柱が温もりを逃がす～
5. 世界と日本のコロナ感染状況比較
6. パート従業員募集
7. 辛口コラム ～オミクロン株～

今月の話題 ～価値が減る通貨～

2020年末に映画公開された「えんとつ町のプペル」。「地域通貨を守る為に生まれた町」という設定と作者の西野亮廣氏は言っております。その地域通貨とは、今月の話題「価値が減る通貨」です。



<実在した価値が減る通貨>

19世紀初頭にドイツの実業家で経済学者のシルビオ・ゲゼル氏が提唱した価値が減る通貨は、世界恐慌にあえぐオーストリアのヴェルグルという町で、公共事業への支払いに「労働証明書」として2年弱流通していました。労働証明書にはスタンプを押す升目があり、お金を払ってスタンプを押さないと通貨としての価値が下がるため、利用者が早くお金を使うため、経済が活性化、完全雇用の達成、税金も速やかに支払われ町が整備されましたが、中央銀行から国家の通貨システムを乱すとされ廃止されました。

<現存する価値が減る通貨>

ドイツのバイエルン州のブリン・アム・キームゼーで現在も流通する「キームガウアー」という地域通貨は、発行から90日は額面通り使え、3か月に3%ずつ紙幣価値が減りスタンプを購入し減額分を補填する必要があります。ヴェルグルの地域通貨同様に大きな経済効果を出しています。

飛騨地方のさるぼぼ電子地域通貨というものは、使う間にポイントがたまり購入から1年でポイントも通貨としての効果も無効になるという仕組みで、経済効果が出ているそうです。

えんとつ町のプペルの通貨は価値が減る通貨のみのようですが、将来不安に対する貯蓄も価値が減っては成り立ちません。通常通貨との併用は今後出てきても良いかもしれません。

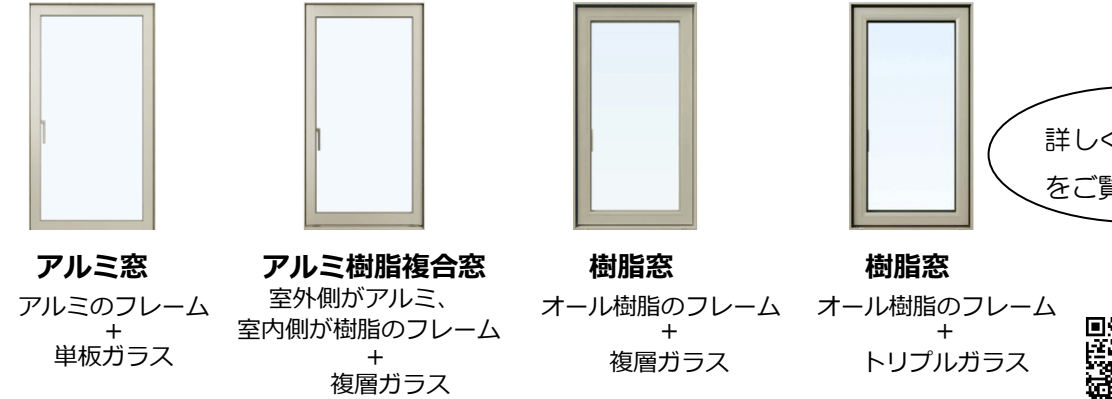
暮らしを快適にするには…窓断熱から

住まいの中で、熱の出入りが一番大きいのは「窓」！！

だから、「窓」の断熱をよくすると、住まいの快適性はグンと良くなります。

◎断熱窓の種類

断熱性 高



断熱窓にするとこんなに快適に！

- 家の中がぼかぼか
- 結露が少なくなり、カビ・ダニの発生が減少
- 暑い夏も過ごしやすい
- 冬の健康リスクが少ない
- 光熱費の節約になる

旬の食材：「蛤」ハマグリ

蛤は、高級品。3月頃から旬になるそうなので特別なお祝いがベタですが、ひな祭りにもおススメです。蛤の貝殻は対のものだけがぴったり合う事から夫婦円満を表し、「一生を一人の人と添い遂げられるように」という願いが込められているのは有名な話ですよ。昔は女性は簡単に離縁できなかったのでおまじないの意味もあったようです。貴族の遊びの「貝合わせ」は縁談が決まると最初に嫁ぎ先に持っていく嫁入り道具の一つだったとか。

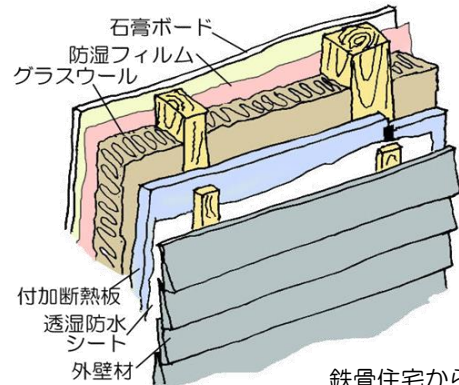


国産蛤で最も流通しているのはチョウセンハマグリ。漢字は朝鮮ではなく汀線と書く在来種。大きく育ち貝殻は白の碁石の材料にも使われます。一方、伊勢、瀬戸内と九州西岸に生息する蛤は、2012年には絶滅危惧種に指定され益々貴重なものになりました。蛤にはタウリンや鉄分、亜鉛などのミネラルも多く含まれているためコロナ疲れの滋養強壮にちょうど良い！シンプルに酒蒸しにして、残りのスープを使っのボンゴレ風パスタは最高です。食べた後の貝殻を土に埋めるだけでは貝塚になってしまうので、燃えるゴミに出して下さいね～。



建築知識 ~家の柱が温もりを逃がす~

前回まで、木材は結構温もりを通過させてしまふ事を説明しました。壁は木材と断熱材が交互に重なったもので、壁の17%は木材です。壁の断熱性能のR値はR2.76の断熱材部が83%とR0.88の木材部17%の混合で、壁全体ではR2.02。何と2.76と強力に断熱した筈が2.02に落ちてしまいます。そこでお勧めはこの壁全体に外からもう1層、樹脂断熱材を張り付けます。



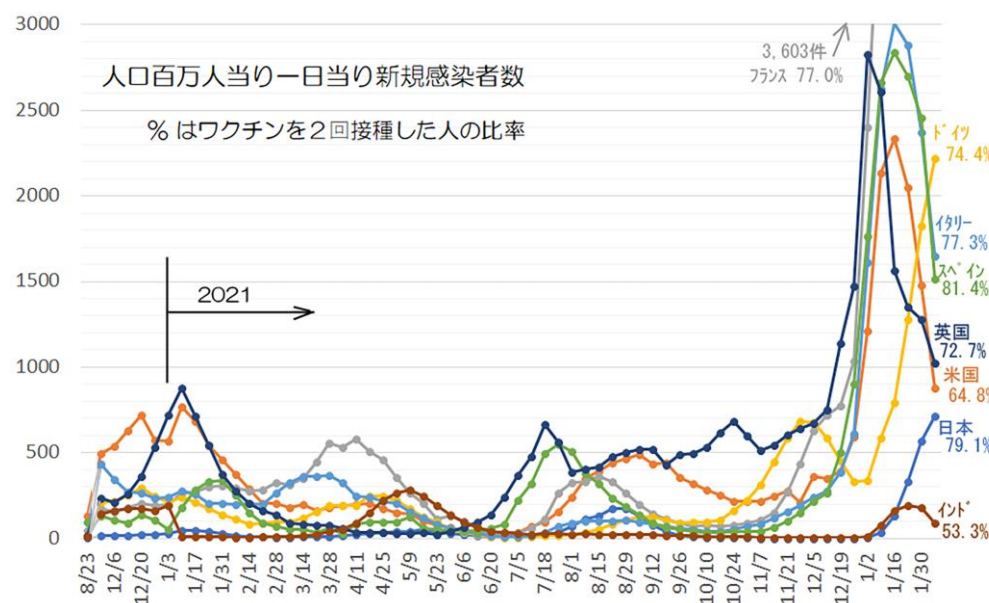
鉄骨住宅から逃げていく温もり。

例えば厚さ3cmの熱伝導率0.022の発泡ポリスチレンを張ると木材から逃げていた温もりが止まり、一気に断熱性能が70%増しになります。もし厚さ5cmを張れば柱間を充填断熱する場合のほぼ2倍の断熱性です。この建築費増額はおよそ100万円程度でしょう。壁の厚さが7割増し~2倍になったのと同じ訳ですから。そして住んでみると家の住み心地が驚くほど良くなった事が体感できるでしょう。冬ならより少ない光熱費でまろやかな温もりに包まれ、夏は冷房が柔らかく効き、冷房の風が嫌いなどという不快感はなくなります。この断熱法を「付加断熱」と言います。

今は未だ一般的ではありませんが、これからの脱CO2時代の家はこれが当たり前になる筈です。これから新築を考えるのであれば絶対にやるべき事で、さもないと将来後悔する事になります。では既存住宅はどうしたらよいかを以降で考えます。

世界と日本のコロナ感染状況比較

下のグラフは、月2回web上で更新しています。下記のQRコードからスマホ等で掲載ページを見ていただくことができます。



パート従業員募集

建築・不動産部門

初心者OK!!



作業内容	土地販売の営業 ポスティング 資料作成 2人1組で行動
勤務時間	AM9時~PM5時の内の 4~5時間
勤務日	週 1~5日 程度(土・日含む) ※応談可
給料	時給1,100円~
年齢・経験	不問
勤務地	みどり市大間々町大間々1190-4
連絡先	☎ 0277-73-4850

お気軽にお問い合わせください。ご応募お待ちしております!!

辛口コラム ~オミクロン株~

西ヨーロッパとアメリカでは昨年末から猛威を振るったオミクロンが1月には急降を始めました。

図1は大感染した英国のデータで、上から感染者数、入院数、死亡数です(BBC)。それ以前の感染よりもオミクロンの感染数ははるかに多いのですが、入院、死亡が極めて少ない事が分かります。軽症で済む例が多いのですが、死亡例も見られます。

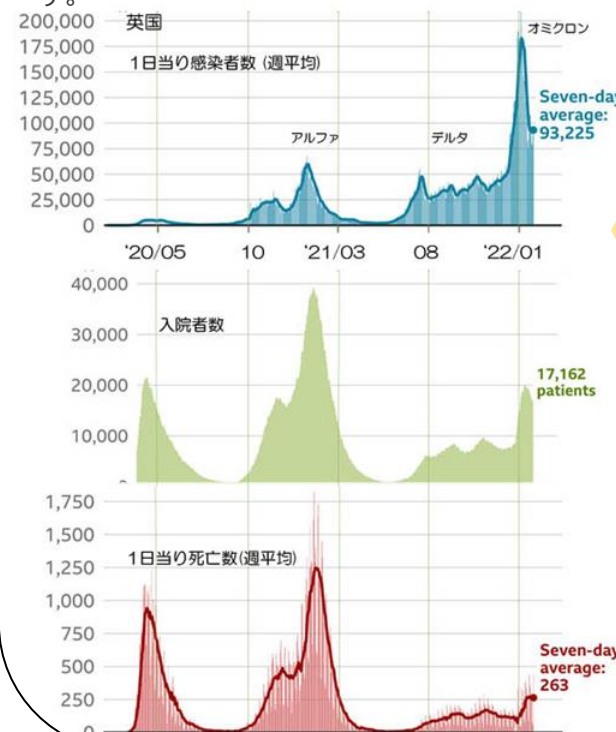


図2はアメリカで、昨夏と年末のオミクロンの感染数と死亡をワクチン接種の有無で比べています(NYタイムズ)。ワクチンでは感染を防げないとはいえ、非接種者は接種者の2倍以上の感染です。非接種者の死亡は接種者の20倍。英国の死亡数の盛り上がりもその殆どは非接種者と思われます。

1月下旬のフランスの新規感染は人口百万人当り一日5千人越えて、日本の人口に換算すると一日65万人ずつですが、ワクチンパスポートがあれば飲食店も交通機関もOK。逆に陰性証明は無効。米国ではこれがインフルエンザ的な病気になっていく入口かもと期待する専門家たちも出ています。

